



山梨県結婚意識調査結果（概要版）

1 調査目的

若者の交際・結婚、妊娠・出産、子育てと仕事の両立の各ライフステージにおける不安や課題、希望する支援等について、若者の意識・本音を調査し、若者が結婚や子育てについて前向きに考えるための有効な支援策を検討することを目的に調査を実施しました。

2 調査方法

県内事業所で就労している20～30代の男女（未婚者200人、既婚者100人）を対象に、選択式調査と聞き取り調査を実施しました。

3 回収状況

未婚者調査30事業所200サンプル、既婚者調査31事業所100サンプルを回収しました。

属性	性別		年齢	
	男性	女性	20代	30代
未婚者調査	95 (47.5%)	105 (52.5%)	145 (72.5%)	55 (27.5%)

属性	性別		年齢		子どもの有無	
	男性	女性	20代	30代	いる	いない
既婚者調査	60 (60.0%)	40 (40.0%)	57 (57.0%)	43 (43.0%)	47 (47.0%)	53 (53.0%)

4 全国との比較に使用しているデータ

- ・全国との比較に使用しているデータは、「平成22年度結婚・家族形成に関する調査報告書」、「平成25年度少子化社会対策大綱の見直しに向けた意識調査報告書」より抜粋しています。
- ・「平成22年度結婚・家族形成に関する調査」の調査対象は20～30代の未婚男女、20～30代の結婚3年以内の男女であり、「平成25年度少子化社会対策大綱の見直しに向けた意識調査」の調査対象は20～40代の結婚3年以内の男女です。
- ・「平成25年度少子化社会対策大綱の見直しに向けた意識調査報告書」では、未婚のみを対象とした集計を行っていないため、全国のデータと比較する間において未婚の比較は行っていません。

平成27年9月

山梨県 県民生活・男女参画課

TEL 055-223-1350 FAX 055-223-1354

交際・出会いについて

◆ 現在の交際状況について ◆ 恋人が欲しいか

未婚者の42.0%が「恋人なし」、5.0%が「交際経験なし」と回答しており、その内の69.1%が「恋人が欲しい」と回答しています。

全国との比較では、山梨県の方が「恋人あり」が16.8ポイント高くなっています。

◆ 恋人が欲しいか ◆ 恋人が欲しいと思わない理由

現在恋人がいない人（恋人なし+交際経験なし）のうち、30.9%が恋人は欲しいと思わないと回答していますが、その理由は「恋愛が面倒」が48.3%と最も多くなっています。

全国との比較では、山梨県の方が「恋愛が面倒」、「自分の趣味に力を入れたい」、「仕事や勉強に力を入れたい」、「異性に興味がない」、「異性と交際することが怖い」が低くなっています。

◆ 異性と交際する上での不安

「自分は異性に対して魅力がないのではないかなと思う」が37.2%と最も多くなっています。

◆ 交際(結婚)相手と出会うために行っている・行っていたこと

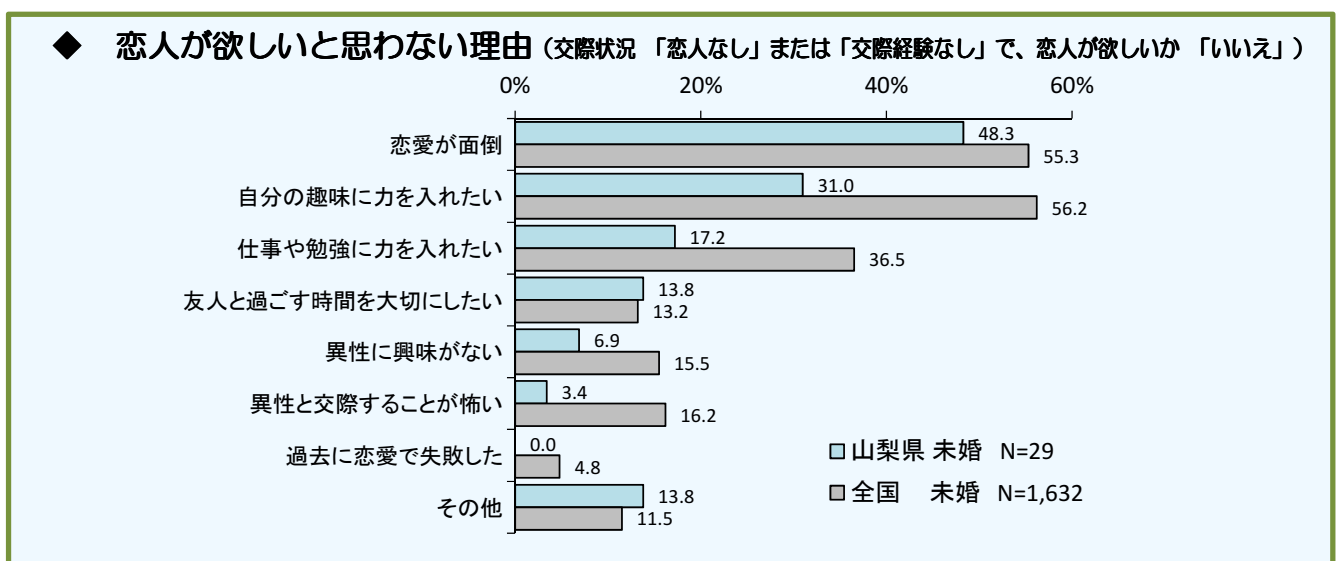
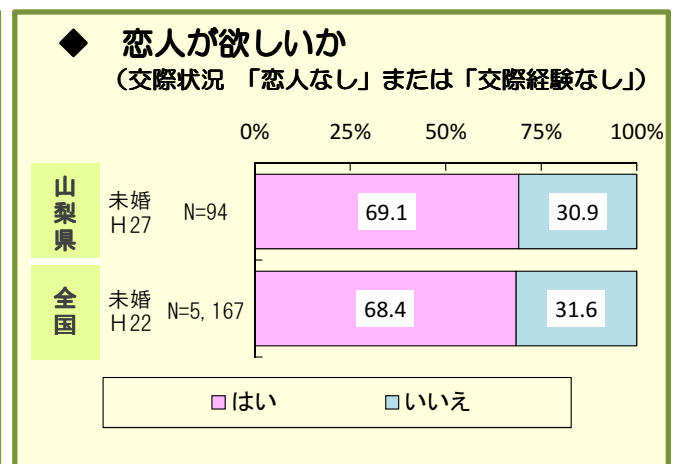
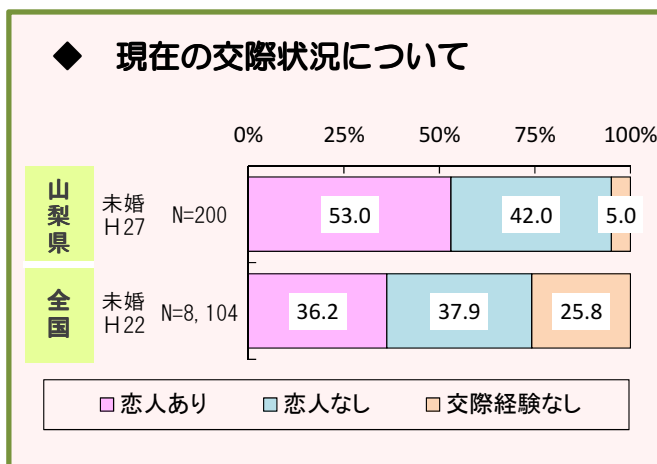
未婚者では「友人に紹介を頼む(頼んだ)」が50.5%と最も多くなっていますが、既婚者では「特にない(特に何もしていない)」が65.0%と最も多くなっています。

全国との比較では、山梨県の方が未婚者は「友人に紹介を頼む(頼んだ)」、「合コンやパーティに行く(行った)」、「職場の同僚や先輩に紹介を頼む(頼んだ)」が多くなっています。

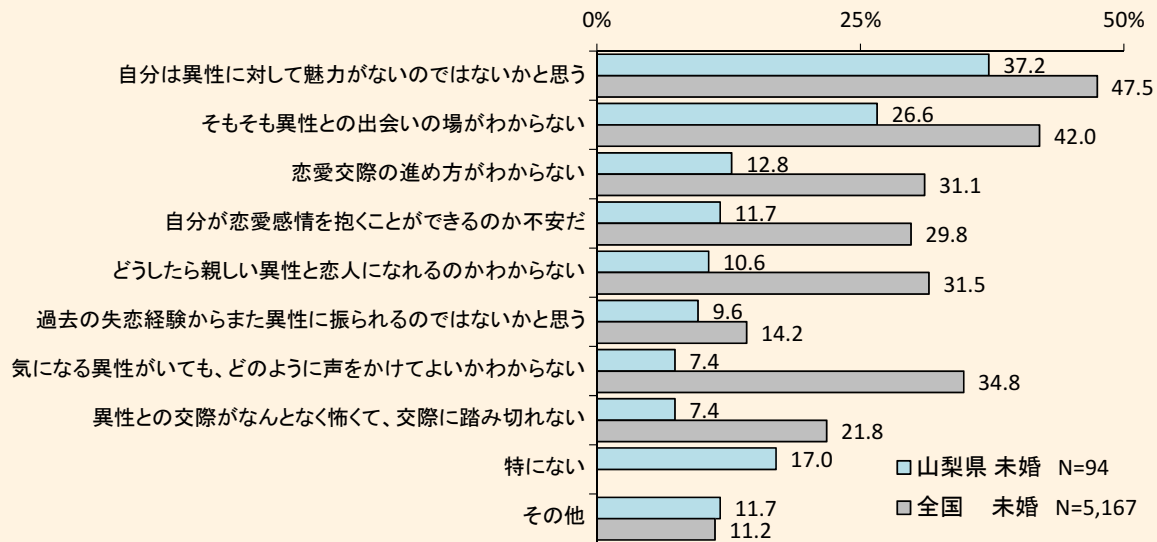
◆ 今後、交際相手と出会うために行いたいこと

未婚者の53.0%が「特にない」と回答しています。

全国との比較では、山梨県の方が「友人に紹介を頼みたい」が高くなっています。

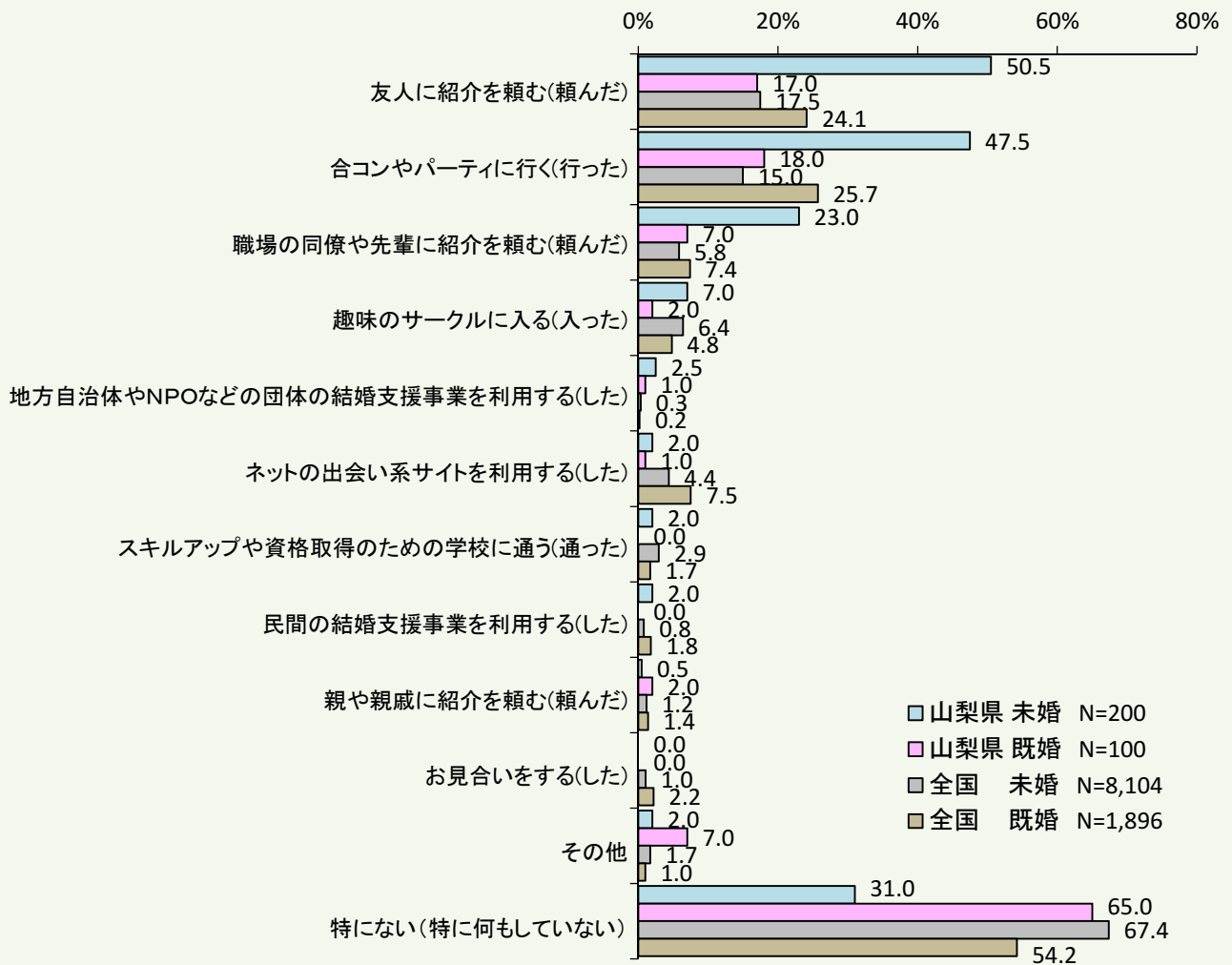


◆ 異性と交際する上での不安（交際状況「恋人なし」または「交際経験なし」）

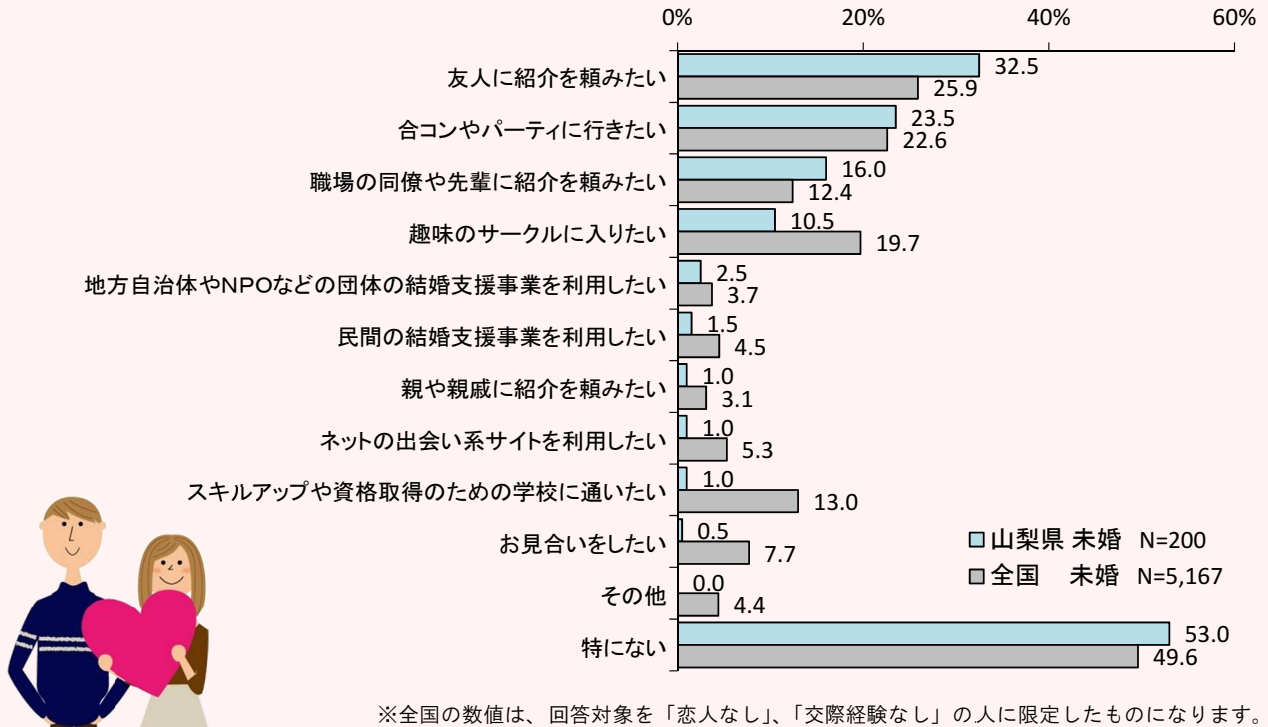


※山梨県における「特になし」は、その他記述に回答が多かったため、新規追加した選択肢です。
 ※全国における「特になし」という選択肢はありません。

◆ 交際(結婚)相手と出会うために行っている・行っていたこと

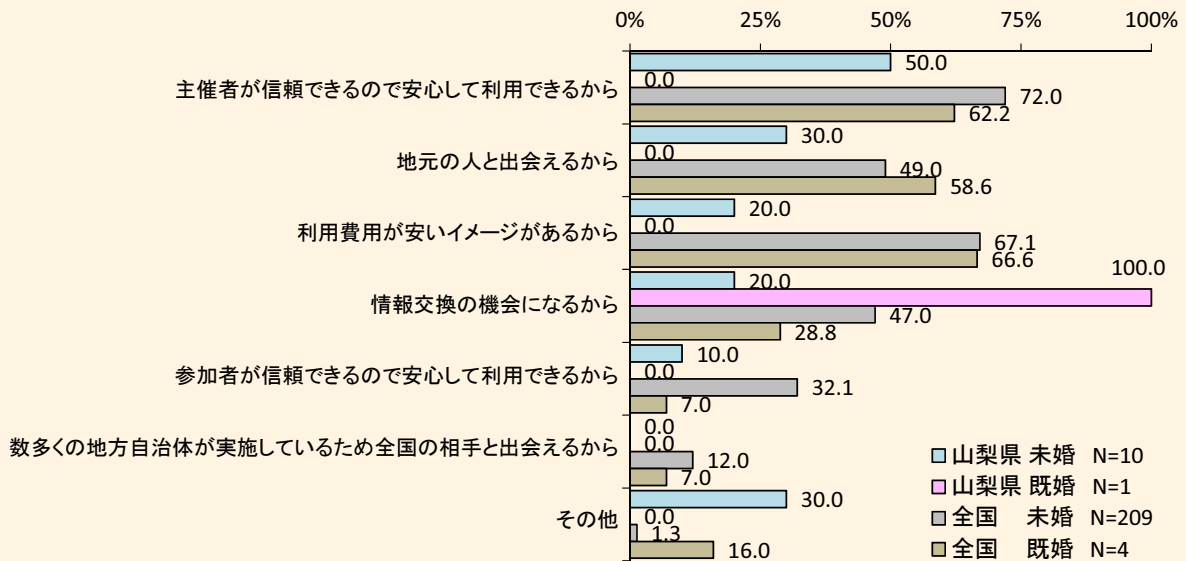


◆ 今後、交際相手と出会うために行きたいこと



◆ 地方自治体やNPOなどの団体の結婚支援事業を利用する（した・したい）理由

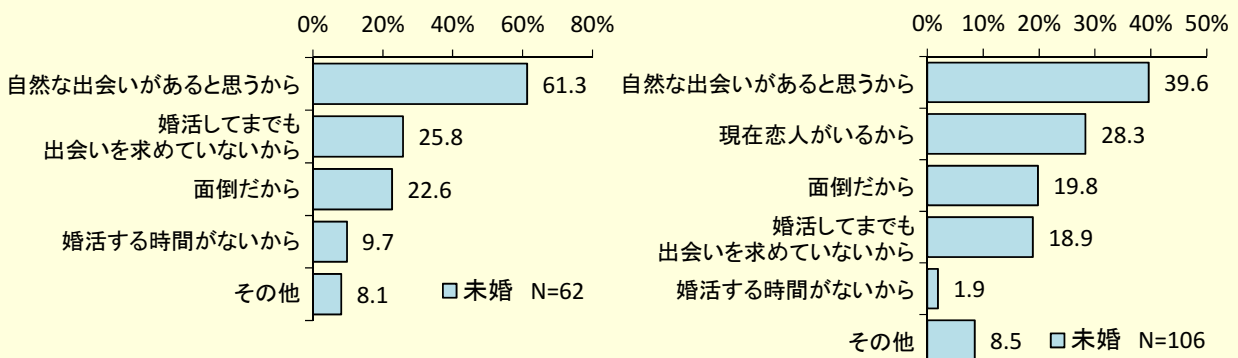
(交際(結婚)相手と出会うために行っている・行っていたこと または 今後、交際相手と出会うために行きたいこと) (未婚のみ) 「地方自治体やNPOなどの団体の結婚支援事業を利用する(した・したい)」



◆ 特にない理由

(左：交際相手と出会うために行っている・行っていたこと「特になし」
右：今後、交際相手と出会うために行きたいこと「特になし」)

*全国との比較なし



結婚支援について

◆ 県が行っている結婚支援の認知状況

「特になし」が未婚者・既婚者ともに80%以上と多くなっています。また、『「婚活やまなし」ホームページ』を知っている人は、未婚者・既婚者ともに1割程度となっています。

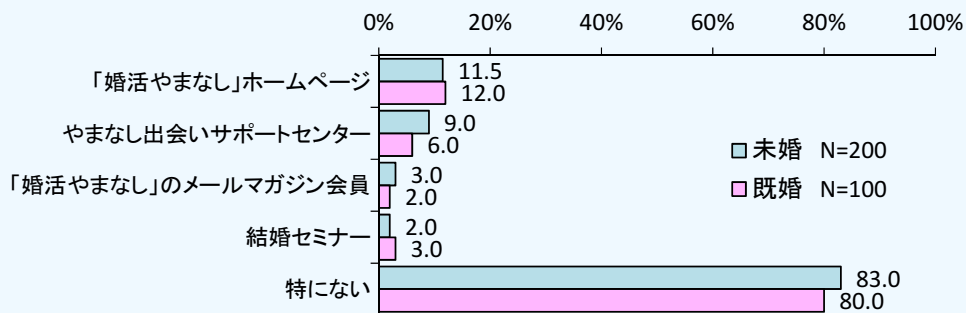
◆ 結婚を希望する人に対して、行政に実施してほしい取組

未婚者では、「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実」が50%と最も多くなっています。一方、既婚者では、「結婚や住宅に対する資金貸与や補助支援」が62%、「結婚した方が有利となる税制や社会保障」が57%と経済面での支援が多くなっています。

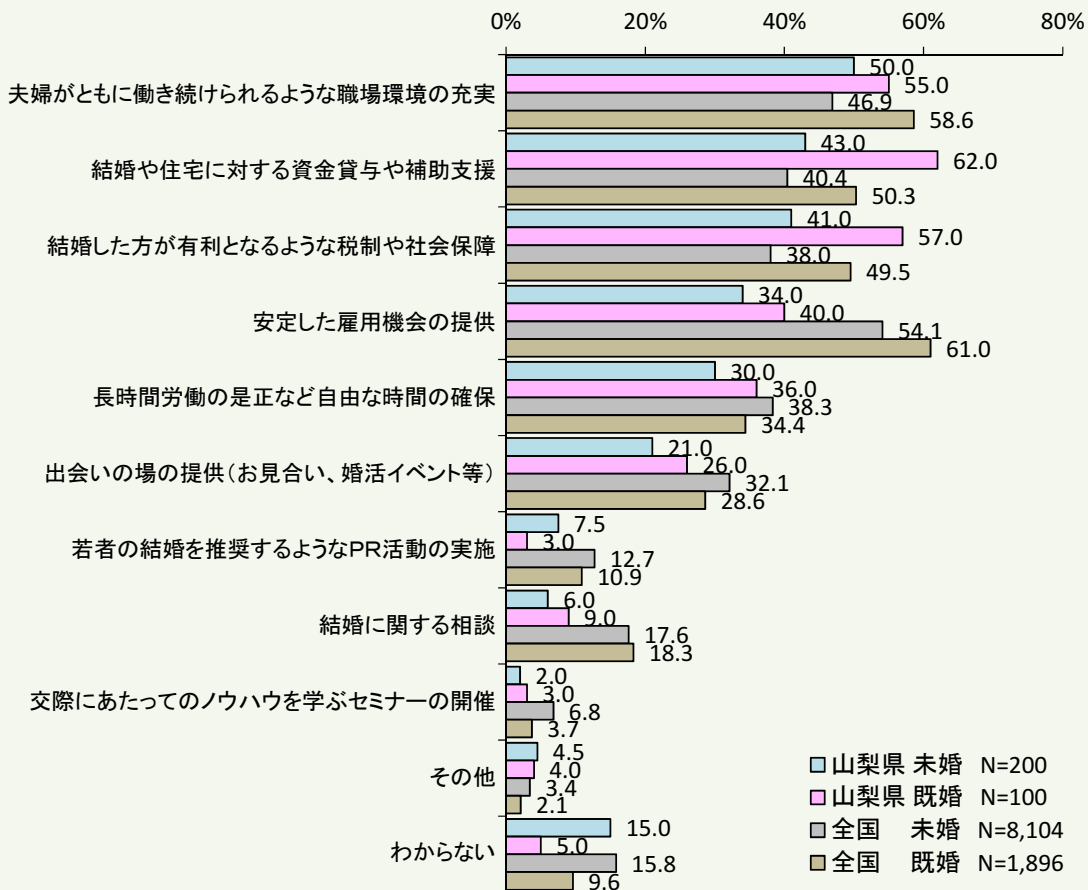
全国との比較では、山梨県の方が未婚者は「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実」、「結婚や住宅に対する資金貸与や補助支援」、「結婚した方が有利となるような税制や社会保障」が多く、既婚者は「結婚や住宅に対する資金貸与や補助支援」、「結婚した方が有利となるような税制や社会保障」が多くなっています。

◆ 県が行っている結婚支援の認知状況

*全国との比較なし



◆ 結婚を希望する人に対して、行政に実施してほしい取組



◎【聞き取り調査結果】行政に実施してほしい取組について

■夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実

- * 仕事と家庭の両立のために時短勤務制度の利用を推奨したり、子どもの学校行事への参加などのための休みを取得しやすくしたりするなど、職場環境を充実してほしい。
- * 男性でも、保育所の迎えや子どもの用事などのために休んだり、時短勤務制度を利用したりしやすい職場の雰囲気づくりを推進してほしい。

■結婚や住宅に対する資金貸与や補助支援

- * 結婚はお金がかかるので、働き続けられる職場環境の整備や経済的な支援をしてほしい。

■安定した雇用の提供

- * 安定した収入や福利厚生が保障された正規社員としての雇用が確保されないと、結婚に踏み切れない人もいる。

■出会いの場の提供

- * 大人数の飲み会の延長のような気軽さのある街コンを開催してほしい。20代は幅広い出会いの場、30代は本格的な婚活の場とするなど、参加者の年代で内容を変えてほしい。

■若者の結婚を推奨するようなPR活動の実施

- * 結婚に対するマイナスイメージを払拭する必要がある。結婚して未来が明るくなるイメージをもたせる必要がある。

■その他

- * 待機児童、保育所・施設の過不足などの問題を改善するために保育環境を充実してほしい。
- * 通常の保育時間は迎えの時間がぎりぎりなので、延長保育を充実してほしい。
- * 結婚は個人の意思によるので、行政の支援は必要ない。周りがいくら騒いでも、自分で動かないと結婚できない。

妊娠・出産について

◆ 妊娠と年齢の関係についての認知状況

妊娠と年齢の関係について認知している人(頻度や確率の数値なども具体的に知っている+頻度や確率の数値は知らないが、内容は知っている)は、未婚者より既婚者の方が多くなっています。

全国との比較では、山梨県の方が「頻度や確率の数値は知らないが、内容は知っている」が19.5ポイント高くなっています。(全国比較は既婚者のみ)

◆ 妊娠、出産に関する情報を得るために利用したことがあるものについて

既婚者が最も「信頼できる」ものは【⑱家族や友人、知人】となっており、全国との比較でも35ポイント高くなっています。

◆ 妊娠と年齢の関係についての情報の入手先 ◆ 妊娠と年齢の関係についての情報を提供するメディアとして信頼できると思うもの

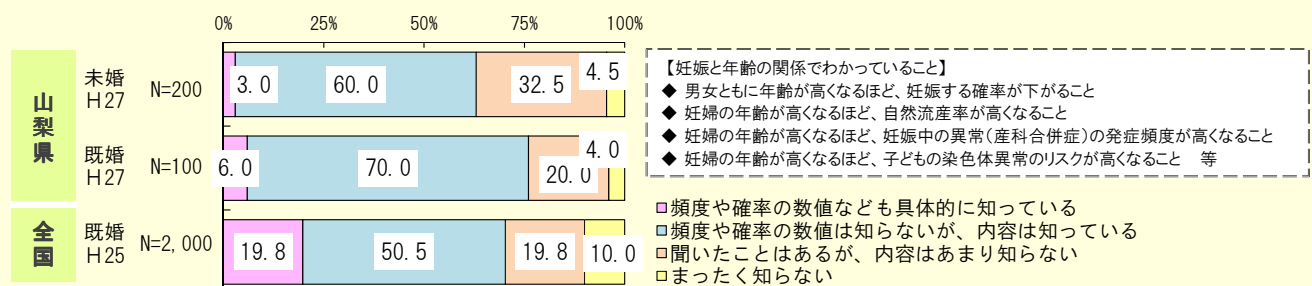
情報の入手先は、「テレビ、インターネット、雑誌など」が未婚者・既婚者ともに70%以上と多く、情報を提供するメディアとして、信頼できると思うものは、「医師や看護師などの医療従事者」が未婚者・既婚者ともに80%以上と多くなっています。

全国との比較では、情報の入手先の全ての項目で全国より多くなっていますが、特に「家族や友人、知人」、「学校」は大きく上回っています。また、信頼できると思うものは「医師や看護師などの医療従事者」、「行政からの広報誌や冊子」、「学校」が多くなっています。(比較は既婚者のみ)

◆ 安心して妊娠・出産するためにほしい情報

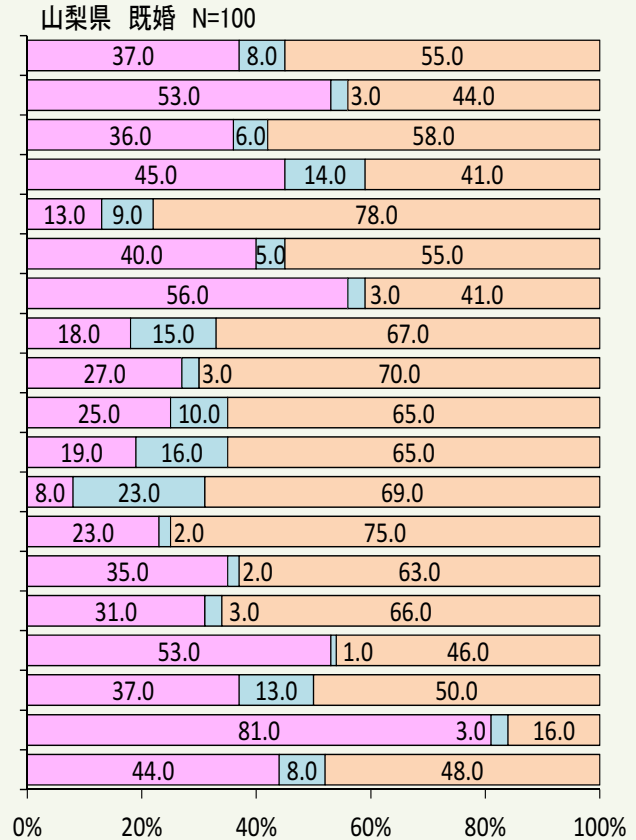
「自治体の子育て支援に関する情報」を筆頭にいずれの情報も未婚者より既婚者の方が多くなっています。

◆ 妊娠と年齢の関係についての認知状況

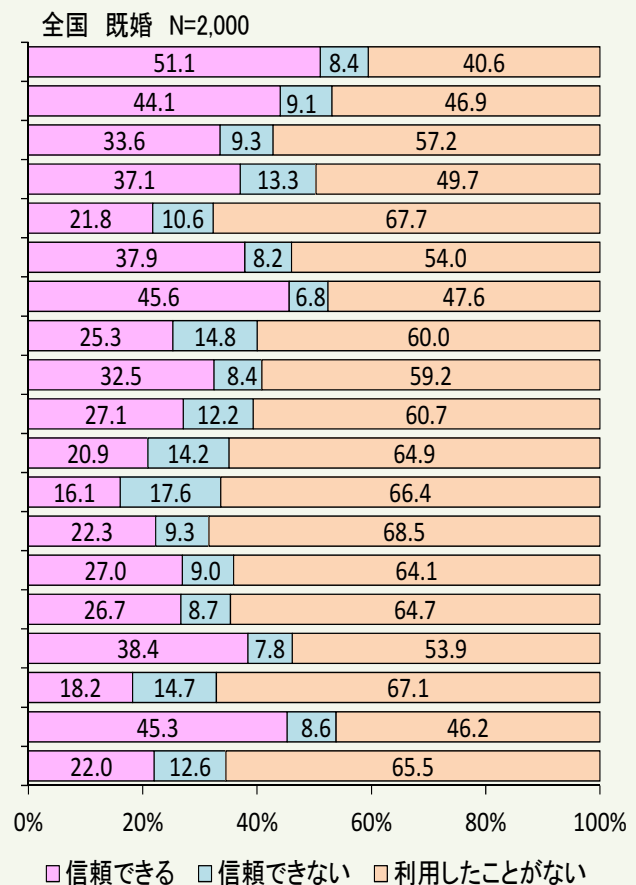


◆ 妊娠、出産に関する情報を得るために利用したことがあるものについての信頼度

- ①週刊誌、月刊誌等の雑誌の記事
- ②妊娠、出産に関する書籍・雑誌別冊(ムック本)
- ③新聞
- ④テレビ・ラジオ
- ⑤ビデオ・DVD
- ⑥自治体が配布しているチラシ・パンフレット
- ⑦産婦人科や助産院等の医療専門機関のチラシ・パンフレット
- ⑧メーカーや通信販売のカタログ
- ⑨自治体のホームページ
- ⑩自治体以外のホームページ
- ⑪パソコンや携帯電話・スマートフォン向けの配信サービス
- ⑫SNS(ツイッター、フェイスブック等)
- ⑬自治体の相談員
- ⑭自治体が主催する講座(母親学級・父親学級等)
- ⑮妊産婦を対象とした交流会やイベント
- ⑯産婦人科や助産院等の医療専門機関の職員
- ⑰マタニティやベビー用品を扱うショップの店員・店舗
- ⑱家族や友人、知人
- ⑲学校の授業



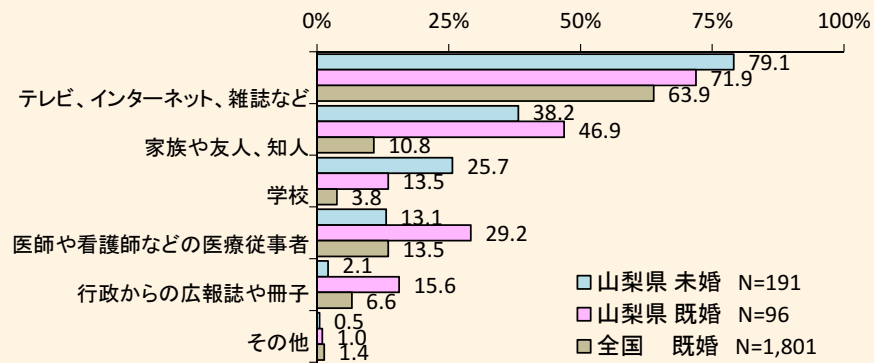
- ①週刊誌、月刊誌等の雑誌の記事
- ②妊娠、出産に関する書籍・雑誌別冊(ムック本)
- ③新聞
- ④テレビ・ラジオ
- ⑤ビデオ・DVD
- ⑥自治体が配布しているチラシ・パンフレット
- ⑦産婦人科や助産院等の医療専門機関のチラシ・パンフレット
- ⑧メーカーや通信販売のカタログ
- ⑨自治体のホームページ
- ⑩自治体以外のホームページ
- ⑪パソコンや携帯電話・スマートフォン向けの配信サービス
- ⑫SNS(ツイッター、フェイスブック等)
- ⑬自治体の相談員
- ⑭自治体が主催する講座(母親学級・父親学級等)
- ⑮妊産婦を対象とした交流会やイベント
- ⑯産婦人科や助産院等の医療専門機関の職員
- ⑰マタニティやベビー用品を扱うショップの店員・店舗
- ⑱家族や友人、知人
- ⑲学校の授業



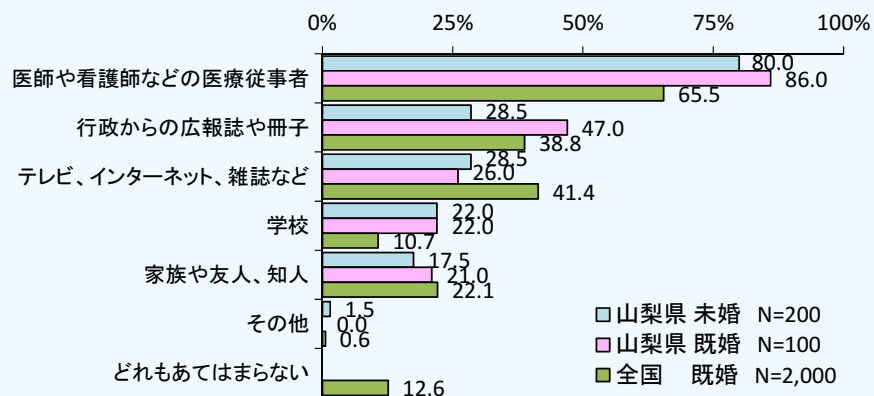
調査票上では、「非常に信頼できる」、「信頼できる」、「信頼できない」、「まったく信頼できない」、「利用したことがない」の5項目ですが、ここでは「非常に信頼できる」+「信頼できる」の値を【信頼できる】、「まったく信頼できない」+「信頼できない」の値を【信頼できない】として掲載しています。

◆ 妊娠と年齢の関係についての情報の入手先

(妊娠と年齢の関係についての認知状況「頻度や確率の数値なども具体的に知っている」、「頻度や確率の数値は知らないが、内容は知っている」、「聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」)

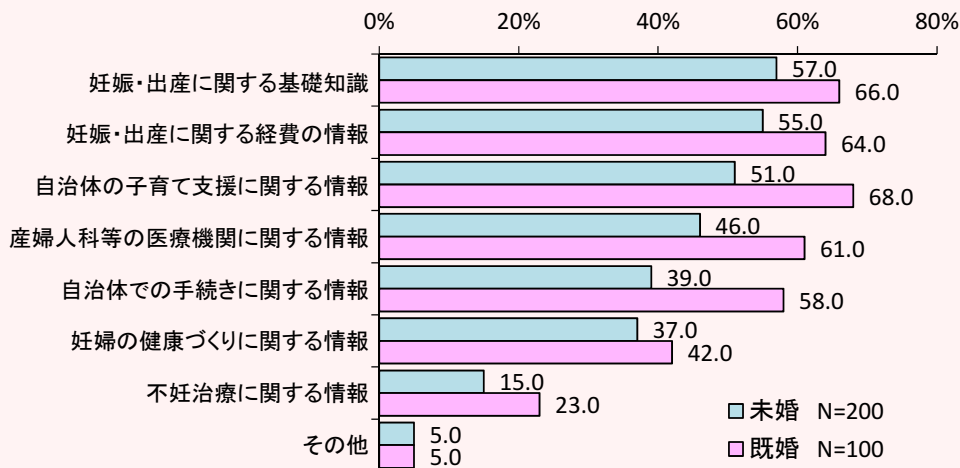


◆ 妊娠と年齢の関係についての情報を提供するメディアとして信頼できると思うもの



◆ 安心して妊娠・出産するためにほしい情報

*全国との比較なし



◎【聞き取り調査結果】安心して妊娠・出産するために必要な情報について

■妊娠・出産に関する基礎知識

- * 「妊娠・出産に関する基礎知識」に関して何もわからないので、基礎的なところから知りたい。
- * メディアなどで、妊婦の年齢が高くなることによる様々なリスクに関する内容が、もっと取り上げられるようになると良い。
- * インターネットからの情報は信憑性に欠けるので、医療機関や行政発信の情報を得たい。
- * 若者はSNSを気軽に使っているので、SNSを利用した情報発信が有効ではないか。
- * 親や友人などの経験者の生の情報がほしい。
- * 妊娠・出産に関する情報を1冊にまとめた冊子を、産婦人科や大きな医療機関・役所においたら良い。

■妊娠・出産に関する経費の情報

- * 必要な費用や補助がわからないので、見積もりなどがほしい。第1子と第2子で金額が異なるのかも、知りたい。

■自治体の子育て支援に関する情報

- * 「自治体での手続きに関する情報」、「自治体の子育て支援に関する情報」は知らないと損をするので、わかりやすい冊子があると良い。
- * 情報収集は基本的にインターネットだが、気軽に見られる行政のホームページが少ない。自治体によって内容が違うので、県で一元化したホームページをつくってPRしてほしい。

■産婦人科等の医療機関に関する情報

- * 産婦人科が少ないので、どこにどのような医療機関があるのか、「産婦人科等の医療機関に関する情報」がほしい。母親学級やベビーマッサージ、離乳食教室などを開催している産婦人科もあるので、そのような情報もあれば、自分に合った医療機関を選べるのではないかと。

■自治体での手続きに関する情報

- * 広報誌には目を通すので、自分で収集するより、配布された方が良い。

■妊婦の健康づくりに関する情報

- * 食生活や運動などの生活全般で、妊娠中にした方が良いこと、してはいけないこと、夫や家族などの周りがするべきことを知りたい。

■妊治療に関する情報

- * 初婚年齢が高く、高齢出産が増えているので、「不妊治療に関する情報」がほしい。

■その他

- * 当事者になってみないと、必要な情報がイメージしにくい。わからないことがわからない。

子育てについて

◆ 子育てについてのイメージ ◆ 子育てすることは大変そうだと思う理由

未婚者の63.5%が、「子育てすることは大変そう」と回答しています。その理由は、「子育てしながら仕事をするのは難しい」「経済的にやっていけるのか」がそれぞれ70.9%と最も多くなっており、全国と比べても高くなっています。

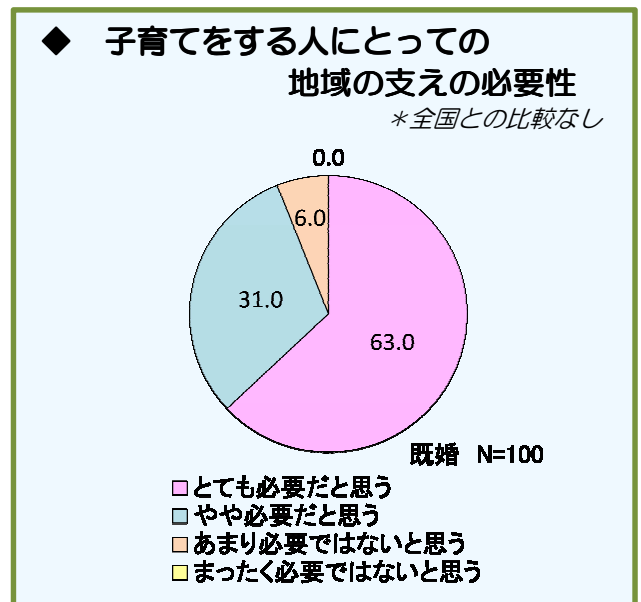
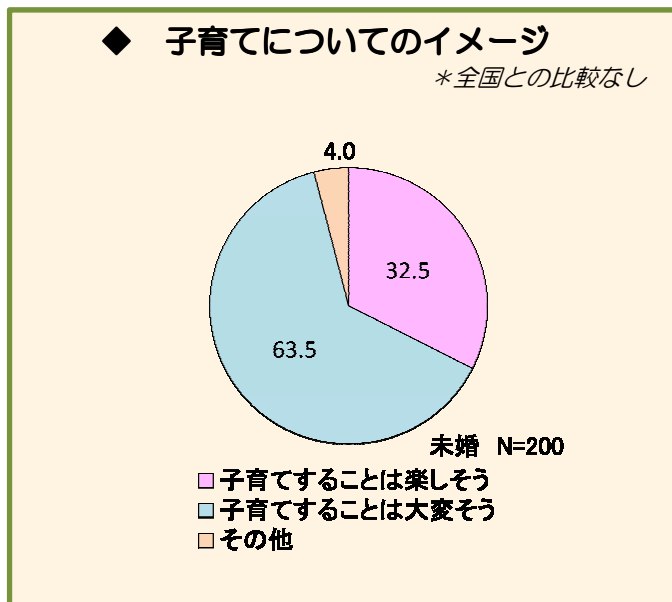
◆ 子育てをする人にとっての地域の支えの必要性 ◆ 地域で子育てを支えるために、重要だと思うこと

既婚者の94.0%が、地域の支えが「必要だと思う」（とても必要だと思う＋やや必要だと思う）と回答しています。また、地域で子育てを支えるために、重要だと思うことは、「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」、「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」、「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」が50%以上となっています。

◆ 子育てで不安に思っていること

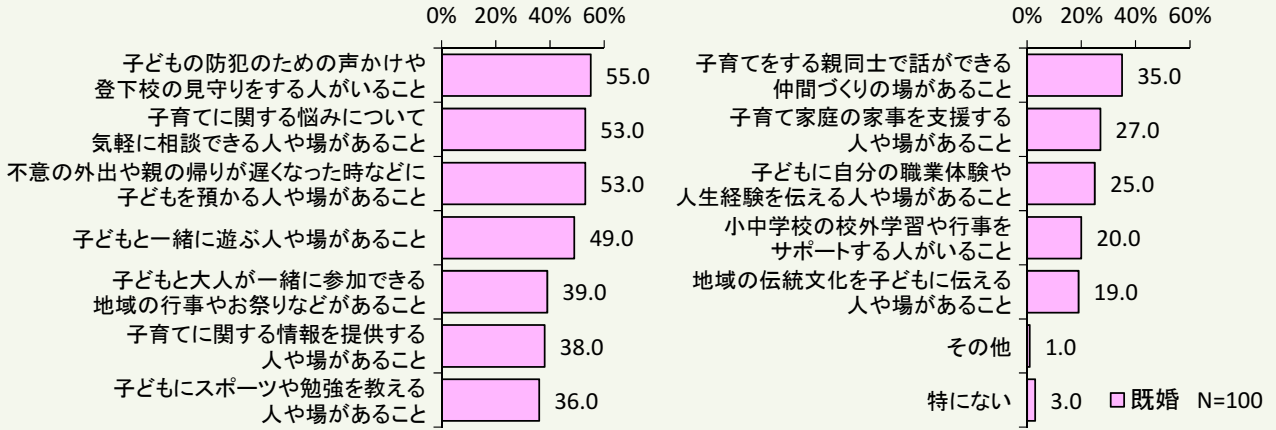
「経済的にやっていけるか」が57%、「子育てしながら仕事をするのは難しい」が56%と突出しています。

全国との比較では、「子育てしながら仕事をするのは難しい」が5.6ポイント高くなっています。

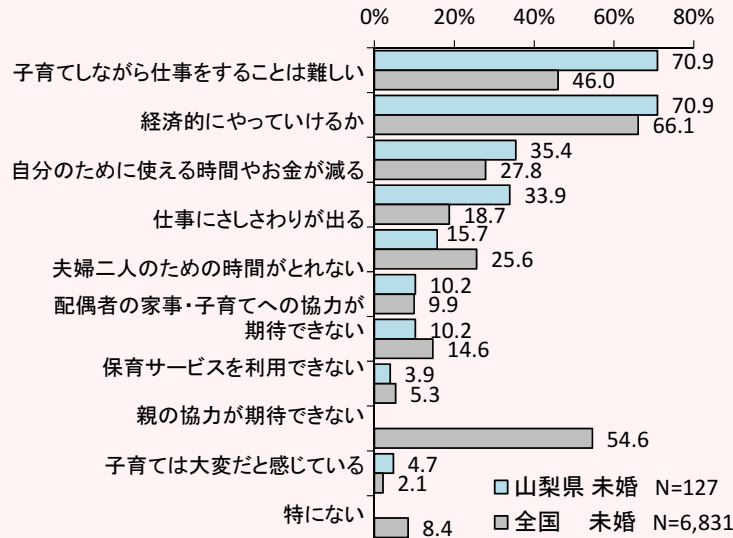


◆ 地域で子育てを支えるために、重要だと思うこと

*全国との比較なし



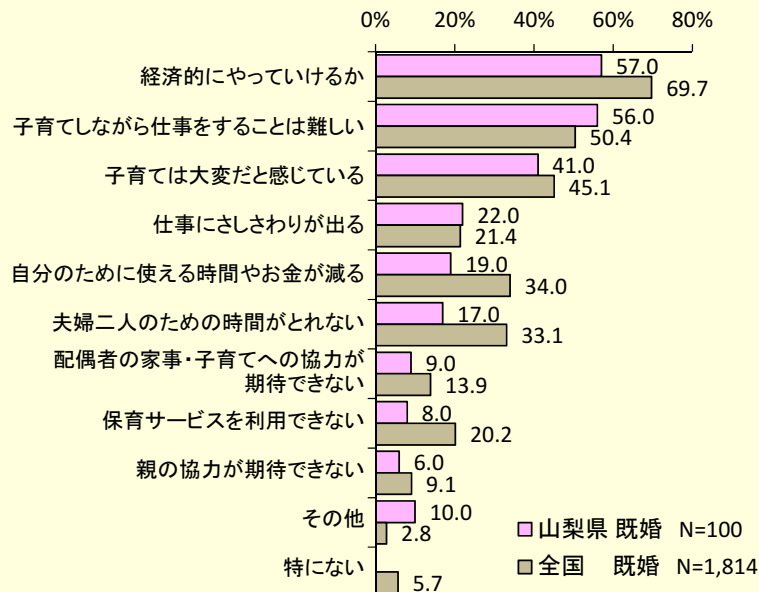
◆ 子育てすることは大変そうだと思う理由(子育てについてのイメージ「子育てすることは大変そう」)



※山梨県における「子育ては大変だと感じている」、「特になし」という選択肢はありません。

※全国の数値は、回答対象を「子どもあり」または「希望する子どもの数を回答している(=子どもが欲しい)」の人に限定したものとします。

◆ 子育てで不安に思っていること



※山梨県における「特になし」という選択肢はありません。

※全国の数値は、回答対象を「子どもあり」または「希望する子どもの数を回答している(=子どもが欲しい)」の人に限定したものとします。

◎【聞き取り調査結果】

子育てすることは大変そうだというイメージ・子育てで不安に思っていることについて

■子育てしながら仕事をするのは難しい

- * 共働きの場合、仕事と家庭の両立が、時間的・精神的に大変そうである。
- * 子どもの体調不良などで急に休む場合、職場の理解を得ることが大変そうである。年に複数回や連続になると厳しい。
- * 育休取得後にスムーズに職場復帰できるのか心配である。

■経済的にやっつけられるか

- * 「経済的にやっつけられるか」という心配が払拭されない。子育てはお金がかかるイメージで、子どもは1人が限度で、複数は考えにくい。

■自分のために使える時間やお金が減る

- * まだ若いので、結婚や子育てより、自分のしたいことを楽しみたいという意識が強い。

■保育サービスを利用できない

- * 保育時間が短く、残業の時には迎えに行けないので、延長保育を充実してほしい。
- * 保育所が少なく、定員がいっぱいで預け先がない。預けられたとしても、第1子と第2子で違う保育所になると聞く。

■その他

- * 自分の子どもの成長を見られることは楽しみであり、仕事のモチベーションの向上にもつながる。誰かのために働くことは、楽しそうである。

ワーク・ライフ・バランスについて

◆ 職場で、仕事と生活の調和を図るために必要だと思うこと

「育児や介護などと仕事の両立に配慮や理解があり、制度を利用しやすい環境にあること」が未婚者・既婚者ともに80%前後と多くなっています。

全国との比較でも、山梨県の方が未婚者で10.3ポイント、既婚者で5.6ポイント高くなっています。

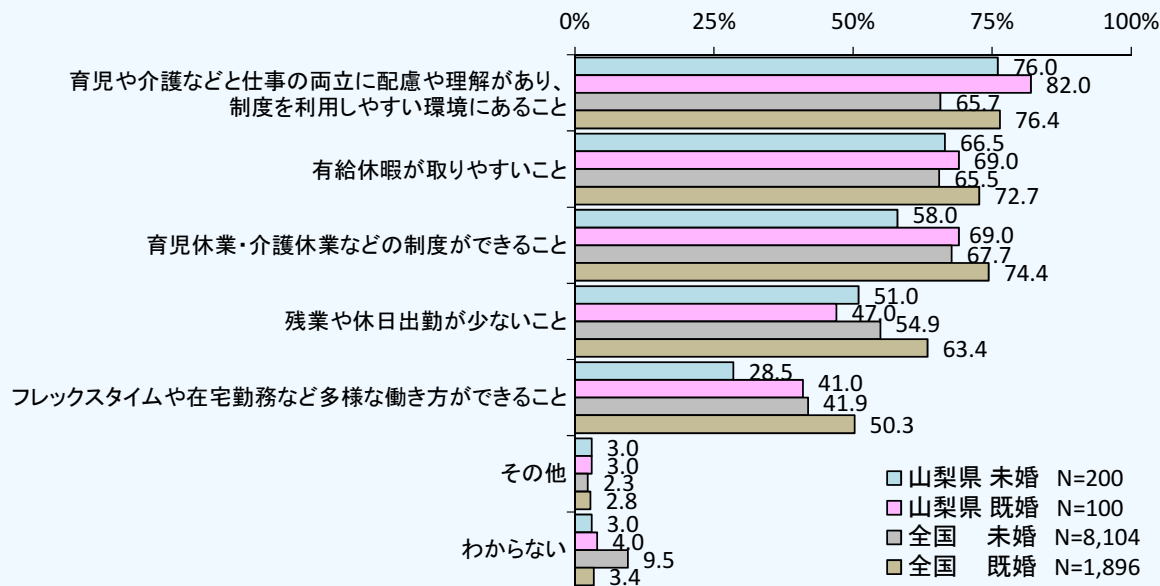
◆ 女性が、結婚後も仕事と子育てが両立できる職場環境づくりのために必要だと思うこと

「企業の協力」が未婚者・既婚者ともに60%以上と多くなっています。

◆ 仕事と生活の調和を図るために／仕事と子育てを両立するために行政に期待する施策

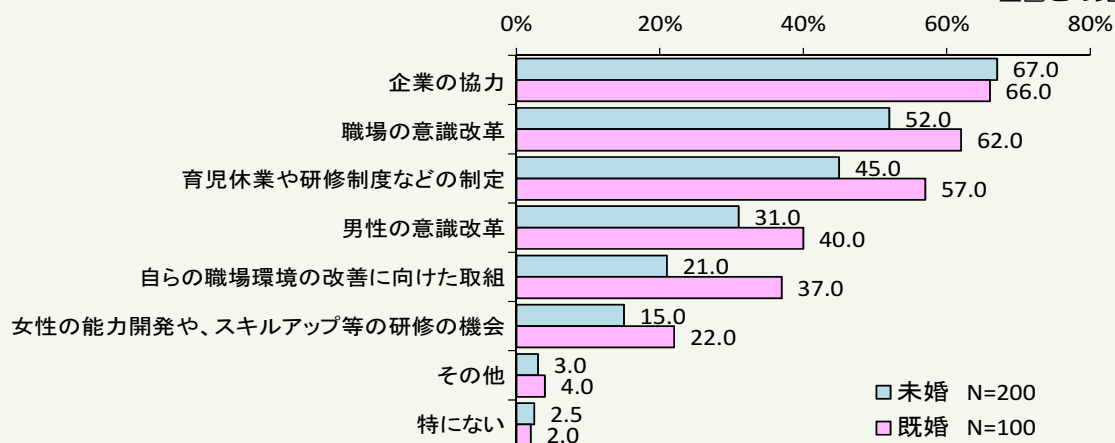
「保育の充実」が未婚者・既婚者ともに最も多く、未婚者は50.5%、既婚者は69.0%となっています。

◆ 職場で、仕事と生活の調和を図るために必要だと思うこと



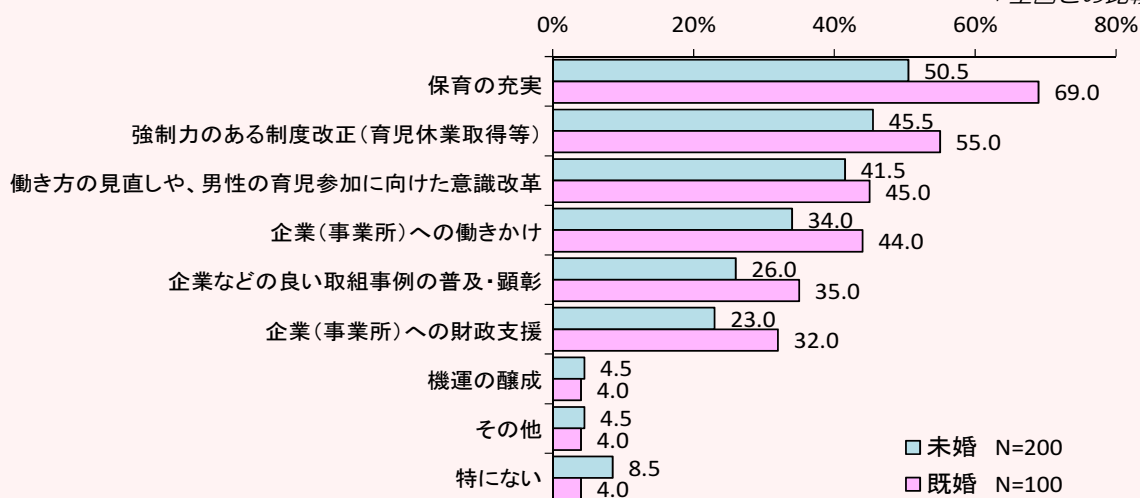
◆ 女性が、結婚後も仕事と子育てが両立できる職場環境づくりのために必要だと思うこと

*全国との比較なし



◆ 仕事と生活の調和を図るために／仕事と子育てを両立するために行政に期待する施策

*全国との比較なし



◎【聞き取り調査結果】仕事と生活の調和を図るために行政に期待する施策について

■保育の充実

- * 延長保育・休日保育・早朝保育・病児・病後児保育を充実してほしい。
- * 職場の近くに保育所などの保育の場を整備してほしい。
- * もっと保育の場を増やしてほしい。希望している保育所に誰でも入れるようになってほしい。
- * 低年齢児保育に対応している保育所が少ない。年度途中での入所が難しい。

■強制力のある制度改正

- * 有休消化日数や休日出勤削減の数値目標を掲げるなど、企業に制限をかけないと育休取得は増えない。
- * 行政から企業に育休取得などのノルマを課すなどの強制力が必要である。ノルマを達成した企業に税制優遇や補助などの財政支援を実施すると良い。

■働き方の見直しや、男性の育児参加に向けた意識改革

- * 産休・育休から復帰した時、時短勤務制度の利用ができたり、急な早退・休みの申請に対する理解が得られたりする職場環境にしてほしい。
- * 男性の意識と職場の理解が変わらなければ、結婚後の仕事と生活の調和は確立されない。
- * 男性も育休を取得できたり、子どもの体調不良や学校行事などの時に休めたりすると良い。
- * 長時間労働を是正して、自由な時間を確保できるようにしてほしい。

■企業への働きかけ

- * 企業に対するペナルティを設けるなどの強制力は難しい。働きかけが限度である。

■企業などの良い取組事例の普及・顕彰

- * 育休取得率が高い企業や育休2年目が取得できる職場環境などを良い取組事例として啓発する。また、行政の強制力を持って取り組むより、企業に意識改革を仕向けていくことで、企業も無理なく育休を取得しやすい職場環境にできる。